

AutoForm^{plus} R2 の発表

チューリッヒ スイス 2010年5月11日

プレス成形業界向けのソフトウェア・ソリューションの世界有数のサプライヤーである **AutoForm Engineering GmbH** は、最新バージョンの **AutoForm^{plus} R2** を発表しました。この最新バージョンでは、いくつかの強力な新機能を追加するとともに、従来品より優れた速度性能が実現されています。

AutoForm^{plus} R2 は新製品ライン **AutoForm^{plus}** の最初のアップグレード版のリリースにあたります。このバージョンではソフトウェア・アーキテクチャの変更を行った結果、優れた速度性能が実現しています。弾塑型シェル要素 (EPS 要素) を使用するかした場合、平均 30%、近似補正メンブレン要素 (BE-M 要素) を使用した場合、平均 12% の処理速度が向上しています。しかも、この処理速度の向上による精度の低下はまったく発生しません。

さらに **AutoForm^{plus} R2** では、メモリ共有型並列コンピューティング (SMP) 機能が改良されました。コア数やプロセッサの数とは関係なく、絶対的な数値結果を得ることができるようになります。つまり、並列スレッドの数が変化しても、同一の入力データの演算であれば結果は同じになります。平均して 2 スレッドで 1.6 倍、4 スレッドで 2.4 倍の速度アップ率になります。SMP オプションの追加とソルバーの処理速度の向上とが組み合わされた結果、**AutoForm^{plus} R2** は、従来品に比べ処理速度が約 3 倍向上するという素晴らしい結果が得られています。

また、**AutoForm^{plus} R2** では、ステンレス鋼 1.4301 の精密金属をサポートした他、ビードのモデリング機能の改良、余肉断面形状のテンプレート化、社内用コストデータの非表示オプションなど、いくつかの新機能が追加されました。スプリングバック補正にも改良が加えられました。その結果、実際に発生する複雑な問題に対処する際に、より高度な補正方法を実行することができるようになりました。

AutoForm Engineering のコーポレート・マーケティング部門担当役員の **Dr. Markus Thomma** のコメントです。「我々は、常に演算時間の短縮と結果の正確性に重点をおいてきました。十数万円以下の費用で 4 コア・プロセッサが搭載される今日の PC 上で **AutoForm^{plus} R2** を使用すれば、操作とスプリングバックの計算時間も含め B プラザ程度のシミュレーションであれば、5 分以下で解析できます。この事実は、この分野での我々の成功例の一つと言えます。ドインナーのようなより複雑な形状のものでも、2.5 時間以内でシミュレーション可能です。このような驚くべき処理速度を実現することで、顧客様は更なるメリットが享受できると確信しております。**AutoForm^{plus} R2** は、本年初夏に発売予定です。」

AutoForm Engineering GmbH について

AutoForm 社は、金型製造業界およびプレス成形業界のプロセスチェーン全体にわたるソフトウェア・ソリューションを提供しています。社員 200 名強を擁し製品の製造、工具・原料費計算、ダイフェース設計、バーチャルプロセス最適化に特化したソフトウェアのリーディングカンパニーとして高く評価されています。同社のソフトウェアは、自動車業界の OEM 企業トップ 20 社をはじめ、多くのサプライヤーで利用されています。スイスのチューリッヒを本拠として、その拠点網はドイツ、オランダ、フランス、スペイン、イタリア、アメリカ、メキシコ、インド、中国、日本、韓国に広がっています。この他 15 カ国以上に代理店を設けています。

日本では、住商情報システム(株)が正規代理店として販売・サポートを行っている他、オートフォームジャパン株式会社を 2007 年に開設し、住商情報システム(株)と協力して、日本国内のマーケットに対して、技術サポート、コンサルティングを提供しています。

会社名、製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

当リリースに関するお問合せ先:

オートフォームジャパン株式会社
ビジネス・ディベロップメント
藤川 敏弘

電話: 03-6459-0881
E-mail: info@autoform.jp